



国立大学法人

大阪教育大学

環境報告書

2015



OSAKA KYOIKU
UNIVERSITY

もくじ

○ 学長挨拶	1
○ 大阪教育大学環境報告書2015の作成にあたって	2
○ 大学概要	3
○ 事業概要	6
○ 環境方針	6
○ 環境マネジメント組織	7
○ 環境配慮実施計画	8
○ マテリアルバランス	12
○ 環境負荷データ	13
○ 環境マネジメント活動の推進	
・ 環境保全活動の状況	17
・ 省エネルギー活動	20
・ エネルギー削減の取り組み状況	21
・ 安全・安心への取り組み	23
・ 地域社会への取り組み	27
・ 学内での取り組み	29
○ 配置図(柏原キャンパス)	32
○ 団地の所在地	33

表紙の解説

表紙の写真は、図書館と大学会館の間サンクンガーデンの「ケヤキ」です。
ケヤキは落葉広葉樹の代表であり、夏の光をさえぎりこちよい小陰を提供しています。

この2本のケヤキは開学時、文部科学省大阪工事事務所所長の霜田氏が寄付したものです。

ケヤキはニレ科ケヤキ属の落葉樹
学名 *Zelkova serrata*

学長挨拶

環境報告書の公表にあたって（平成27年9月）



国立大学法人大阪教育大学長

粟林 澄夫

柏原キャンパスにやってきて20年が過ぎました。当時私達が植えた樹木は大きく成長し、緑に覆われたキャンパスへと変貌しました。ここへやって来た時は建築工事が続いており、建物がまだ全ては完成しておらず、雨が降ればドロドロになり長靴を履いて来なくてはならない状況であったことが思い出されます。

私達の柏原キャンパスは大阪府と奈良県の境にあり、金剛生駒紀泉国定公園にある二上山の連山「寺山」の北側中腹に位置し、国定公園の東西方向が一番狭い場所にあります。

国定公園内であるとともに、金剛生駒の山並みの一部でもあるため、山のスカイラインを壊さないように工夫されたキャンパスです。

月日が経ち関係者の顔ぶれも変わり、事務局棟から見える崖が大学所有であることを知る人も少なくなりつつあります。今年はキャンパスの全体像を掴むことを目的とし、空からレーザー測量を試みました。私達がやって来る前からある樹木や私達が植えた木々に覆われたキャンパス全体の起伏を把握するとともに、今後の活用を考えるための資料として、急斜面の確認、樹木の倒木状況などを調査しました。調査結果から強調したいのは「山の水の流れ」です。キャンパスを作るにあたり、雨水が一気に河川に流れでないようにキャンパス中央に調整堰堤を設けましたが、それ以外に谷筋が3箇所あることや北東進入路横から鉄道の軌道敷の下を通過して河川に繋がるルートがあることなども再確認することができました。これらの谷筋がキャンパスの中だけでなく、その上流・下流とも繋がっていることは、このキャンパスで学んだ若者達が、また次の世代を育てることに通じるものがあると思います。

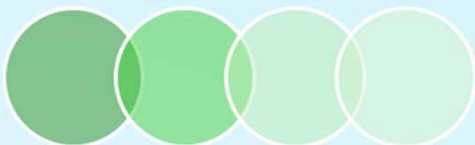
キャンパス造成時に作られた構造物は定期的な維持管理を行わないと色々なところで自然の力に負けてしまうこともこの一年の調査活動から明らかになりました。

また、保存樹林であっても里山の人工林であり、定期的に人の手が入らないと山が荒れることもわかりました。

金剛生駒山のスカイラインを守るという大きな役割を私達が担っていることも含め、この柏原キャンパスが持つ特性を最大限に活用した活動を行っていきたいと考えています。

ここから巣立つ若者には自然のすばらしさを知ってもらい、次世代を育てる教育者として活躍していただきたく、私達は自然の溢れるキャンパスにする努力を引き続き行います。

皆様方にはこれからもご指導ご協力をお願いいたします。



大阪教育大学環境報告書2015の作成にあたって

方針

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」の施行により、平成18年度より大阪教育大学では、環境報告書を作成、公表してまいりました。大阪教育大学は平成16年4月に法人化し、大学の独自性が問われる中、省エネの取り組み、古紙のリサイクル等環境負荷削減に取り組んでまいりましたが、なお一層の取り組みが必要であると考えております。大阪教育大学環境報告書2015は、本学の教職員、学生、本学への入学を希望されている方々、保護者及び近隣住民に対して、平成26年度の大阪教育大学の環境についての現状を報告するものとして作成いたしました。

報告書の対象範囲

大阪教育大学柏原キャンパス

報告書の対象期間

平成26年度（2014年4月～2015年3月）

※但し一部内容については2015年8月までの内容を含む。

参照ガイドライン等

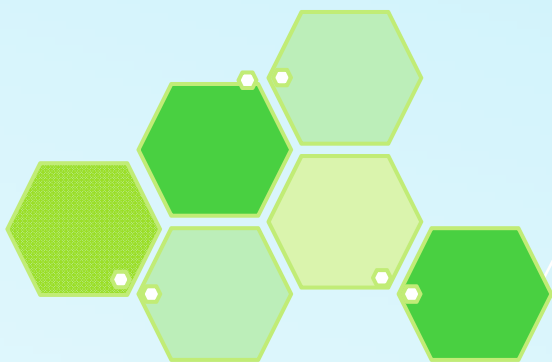
- ・「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に基づく「環境報告書の記載事項」
- ・環境省「環境報告書の記載事項等の手引き」
- ・環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」

発行年月

平成27年9月

次回発行予定

平成28年9月

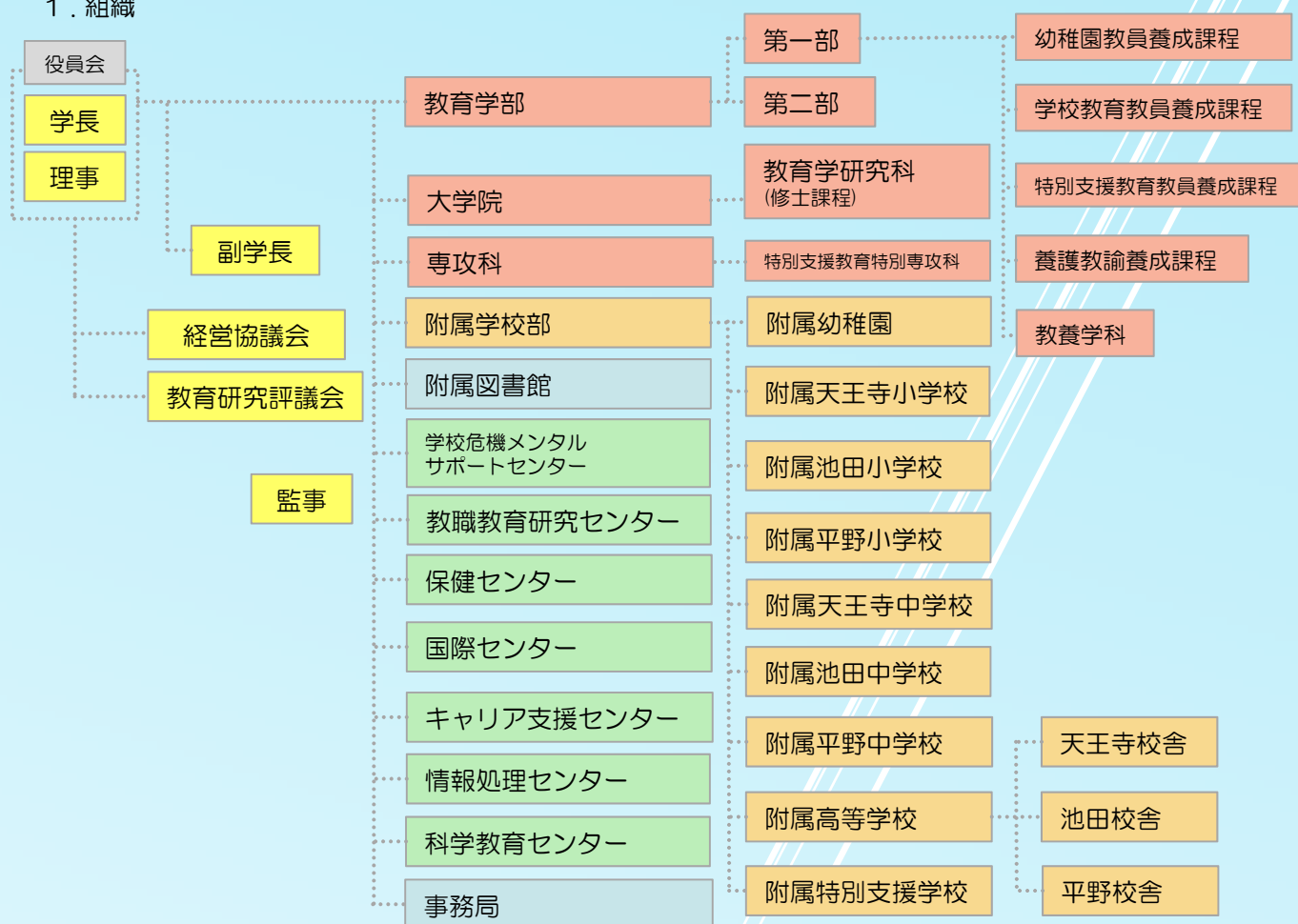


大学概要

大阪教育大学は、1874年（明治7年）8月に設置された教員伝習所にその起源を有する我が国有数の教員養成系大学です。

現在の大阪教育大学は、大阪府柏原市の金剛生駒紀泉国定公園内に約67万㎡のメインキャンパスを配置し、教員養成教育と教養教育を通じて有為な人材を輩出する一方、国際都市として交通アクセスはもとより情報・産業の中核機能を有する大阪市内に天王寺キャンパスを擁し、大阪市天王寺区、平野区及び大阪府池田市の3地区に初等・中等教育並びに特別支援教育に対応した附属学校園とともに総合的な教育系大学をめざしています。

1. 組織



(2015年3月現在)

2. 職員数（平成26年5月1日現在）

学 長	理 事	監 事	合 計
1	4	2	7

教授	147
准教授	88
講師	13
助教	1
附属学校教員	262
事務系職員	157

3. 学生数

■教育学部（平成26年5月1日現在）

第一部 教員養成課程・教養学科

教員養成課程	2,076 (5)
教養学科	1,765 (57)
合 計	3,841 (62)

第二部 小学校教員養成5年課程

1年次入学	215
3年次編入学	160
合 計	375

大学院教育学研究科

学校教育専攻他17専攻	432 (32)
-------------	----------

特別支援教育特別専攻科

特別支援教育特別専攻科	26
-------------	----

外国人留学生は（ ）
で外数で記入

事業概要

本学は、その主目的である教員養成の他、幅広い教養と豊かな人間性を身につける教養学科を置き、加えて、それぞれを基礎に置く大学院を設置しています。

また、聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象とした特別支援教育特別専攻科を置いています。

1. 教育学部

本学教育学部には第一部〔柏原キャンパス〕・第二部〔天王寺キャンパス・夜間〕の教員養成課程と教養学科があります。

(1) 教員養成課程

① 第一部

卒業と同時に所属する課程・専攻に対応する教育職員一種免許状授与資格を得られるように編成されています。

課程は、学校教育教員養成課程、特別支援教育教員養成課程、幼稚園教員養成課程、養護教諭養成課程があります。

② 第二部

天王寺キャンパスにおいて、昼間に学べない勤労学生等のために門戸を開いており、課程は小学校教員養成5年課程で、卒業と同時に小学校教員一種免許状授与資格を得られるように編成しています。

(2) 教養学科

現代社会の要望に応える幅広い教養を身につけることができる人材を育成することを目的として、8専攻を設けています。人間科学専攻、文化研究専攻、数理科学専攻、自然研究専攻、情報科学専攻、スポーツ専攻、健康生活科学専攻、芸術専攻

2. 大学院教育学研究科（修士課程）

本学の大学院教育学研究科(修士課程)の組織は教員養成課程を基礎に置く大学院と教養学科を基礎に置く大学院に大別でき、その各々に現職教員、社会人等を対象とする夜間大学院を設けています。

また、すべての専攻において、基礎となる一種免許状授与の所要資格を有している場合に限り、専門分野に対応する教育職員専修免許状授与の資格を得ることが可能です。

(1) 教員養成課程を基礎に置く14専攻

- | | | |
|---------|---------------|----------|
| ①学校教育専攻 | ②国語教育専攻 | ③社会科教育専攻 |
| ④数学教育専攻 | ⑤理科教育専攻 | ⑥英語教育専攻 |
| ⑦家政教育専攻 | ⑧音楽教育専攻 | ⑨美術教育専攻 |
| ⑩保健体育専攻 | ⑪特別支援教育専攻 | ⑫技術教育専攻 |
| ⑬養護教育専攻 | ⑭実践学校教育専攻(夜間) | |

(2) 教養学科に基礎を置く4専攻

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-------------|
| ①国際文化専攻 | ②総合基礎科学専攻 | ③芸術文化専攻 | ④健康科学専攻(夜間) |
|---------|-----------|---------|-------------|

3. 特別支援教育特別専攻科

聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象として特別支援教育に関する専門教育を行い、この分野における教育を担当し得る教員の養成を目的に設置しています。

修了年限は1年で、すでに教員免許を有しているものを対象としています。

環境方針

■ 基本方針

大阪教育大学は、地球環境の保全が大きな問題であることを真摯に受け止め、教育研究及びあらゆる活動を通じて、地域を含めた良好なキャンパス環境の維持保全に努めます。

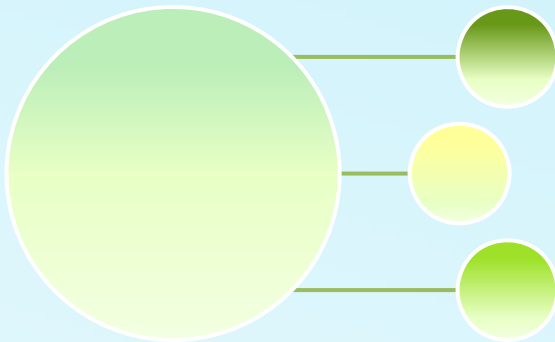
また、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成します。このため、特に次の事項について推進して行きます。

1. 省エネルギー、廃棄物の抑制、資源の再利用、環境汚染防止等全ての環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
2. 美しく豊かなキャンパス環境の実現に向けた緑化整備、環境美化等について、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
3. 環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を制定し、大学の社会的責任を果たします。
4. この基本方針を達成するため、環境配慮目標を設定し、環境情報を提供するなど、全ての大学構成員により、環境保全に取り組みます。
5. この方針は、BBS（電子掲示板）をもって全構成員に周知するとともにインターネットのホームページを用いて、広く社会に開示します。

平成27年9月

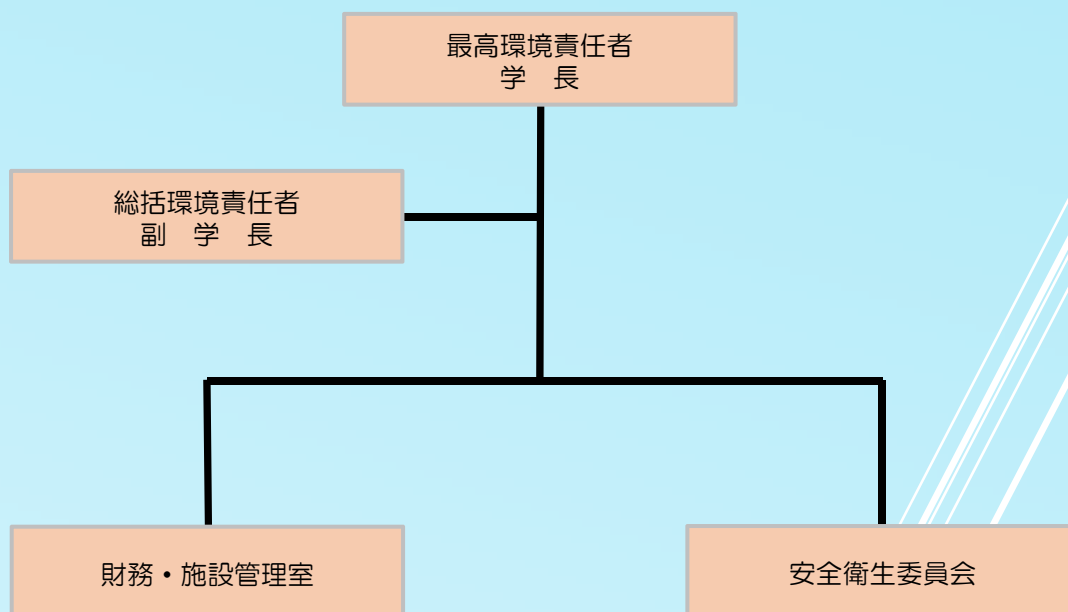
国立大学法人大阪教育大学

学長 栗林 澄夫



環境マネジメント組織

本学には施設・環境に係わる計画、整備及び維持保全について、担当理事(副学長)を室長に教員、事務職員で構成する財務・施設管理室が審議検討を行っています。また、教職員の危険並びに健康障害の防止等安全衛生については、担当理事(総務企画担当)を委員長に審議検討を行っています。



委員会等構成

財務・施設管理室	
担当理事 (室長)	
管理部 長	
学長指名職員	理事 1 名
	教授 1 名
	財務課 長
	施設課 長
	人事課 長

安全衛生委員会 (規程・第23条)
担当理事 (委員長)
産 業 医
衛生管理者 (学長指名)
安全衛生経験者 (学長指名)
危害防止担当者 (学長指名)
健康障害防止・対応策 (学長指名)
学長指名委員 2 名

環境配慮実施計画

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「喫煙対策」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めて行きます。

平成26年度の実施計画、評価 (自己評価の○は計画達成、△は一部達成、×は未達成を示します。)

■ 省エネルギー・省資源の推進

項目	実施計画	自己評価
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/> エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を前年度比1%削減する。 <input type="checkbox"/> 掲示物等で省エネの啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 廊下・トイレ等の照明の自動点灯・消灯装置への更新、教室等の照明器具のHf型照明器具への更新する。	○
水使用量の節減	<input type="checkbox"/> 掲示物等で節水の啓発を行う。 <input type="checkbox"/> トイレの手洗い自動水栓の導入を行う。 <input type="checkbox"/> メーターを検針し、水使用量を把握して大きな漏水がないかチェックする。	○

■ 廃棄物の抑制

項目	実施計画	自己評価
一般廃棄物の排出抑制	<input type="checkbox"/> 分別回収の徹底強化する。 <input type="checkbox"/> 大学生協のランチボックス等紙パックの回収する。 <input type="checkbox"/> 掲示によるマナー啓発活動の展開する。	○
用紙使用量の削減	<input type="checkbox"/> 用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 <input type="checkbox"/> 学内連絡や会議用資料の保存等を紙から電子記録媒体に移行する。	○

■ 環境汚染防止

項目	実施計画	自己評価
実験廃棄物等の管理	<input type="checkbox"/> 学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。	○
実験廃棄物の廃棄	<input type="checkbox"/> 大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処分する。	○
実験用劇物等の管理	<input type="checkbox"/> 購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 <input type="checkbox"/> 大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は使用する毎に記載する。	○

環境配慮実施計画

■ 環境教育等の充実

項 目	実 施 計 画	自己評価
環境教育の充実	<input type="checkbox"/> 教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。	○
環境保全意識の啓発	<input type="checkbox"/> 春と秋、年2回のキャンパスクリーン週間を設け、自分達を取り巻く環境は自分達の手で護らねばならないという意識の芽生えを図る。	○

■ 地域貢献

項 目	実 施 計 画	自己評価
森林体験学習	<input type="checkbox"/> 柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。	○
グリーンアドベンチャ (社団法人青少年流協会)	<input type="checkbox"/> キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。	○
その他	<input type="checkbox"/> 星空を観察するという身近な方法で大気の汚れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」の実施する。	○

■ 受動喫煙対策

項 目	実 施 計 画	自己評価
喫煙・分煙区域の指定	<input type="checkbox"/> 分煙対策として、引き続き禁煙区域の明示と喫煙場所の整理を行い、受動喫煙の弊害を抑制する。	○
啓発活動	<input type="checkbox"/> 喫煙者に対する健康意識の高揚や喫煙マナー向上に向けたPR活動を推進する。	○

■ 学内美化

項 目	実 施 計 画	自己評価
雑草の刈り取りとゴミの一斉収集	<input type="checkbox"/> キャンパスクリーン週間を年間2回設け、教職員と学生による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。また、この週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。	○
花壇の整備	<input type="checkbox"/> 計画的に整備する。	○
植栽の剪定	<input type="checkbox"/> 定期的に植木剪定業者を雇い剪定する。	○

環境配慮実施計画

平成27年度の目標

■ 省エネルギー・省資源の推進

項目	実施計画
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/> エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を前年度比1%削減する。 <input type="checkbox"/> 太陽光発電設備の設置等自然エネルギーの導入を推進する。 <input type="checkbox"/> 掲示物等で省エネの啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 廊下・トイレ等の照明の自動点灯・消灯装置への更新、教室等の照明器具のHf等照明器具等への更新、省エネに配慮した機器、システムの導入を推進する。
水使用量の節減	<input type="checkbox"/> 掲示物等で節水の啓発を行う。 <input type="checkbox"/> トイレの手洗い自動水栓の導入を行う。

■ 廃棄物の抑制

項目	実施計画
一般廃棄物の排出抑制	<input type="checkbox"/> 分別回収の徹底強化する。 <input type="checkbox"/> 大学生協のランチボックス等リサイクルする。 <input type="checkbox"/> 掲示によるマナー啓発活動の展開する。
用紙使用量の削減	<input type="checkbox"/> 用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 <input type="checkbox"/> 学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。

■ 環境汚染防止

項目	実施計画
実験廃棄物等の管理	<input type="checkbox"/> 学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。
実験廃棄物の廃棄	<input type="checkbox"/> 大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処分する。
実験用劇物等の管理	<input type="checkbox"/> 購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 <input type="checkbox"/> 大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は使用する毎に記載する。

■ 環境教育等の充実

項目	実施計画
環境教育の充実	<input type="checkbox"/> 教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。 <input type="checkbox"/> 学内環境を通して、自然環境の大切さを学ばせる。
環境保全意識の啓発	<input type="checkbox"/> 春と秋、年2回のキャンパスクリーン週間を設け、自分達を取り巻く環境は自分達の手で護らねばならないという意識の芽生えを図る。

環境配慮実施計画

■ 地域貢献

項 目	実 施 計 画
森林体験学習	□柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。
グリーンアドベンチャ (社団法人青少年交友協会)	□キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを廻る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。
その他	□星空を観察するという身近な方法で大気の流れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」の実施 □幼稚園の遠足及び国際フェスティバル等の場所を提供する。

■ 受動喫煙対策

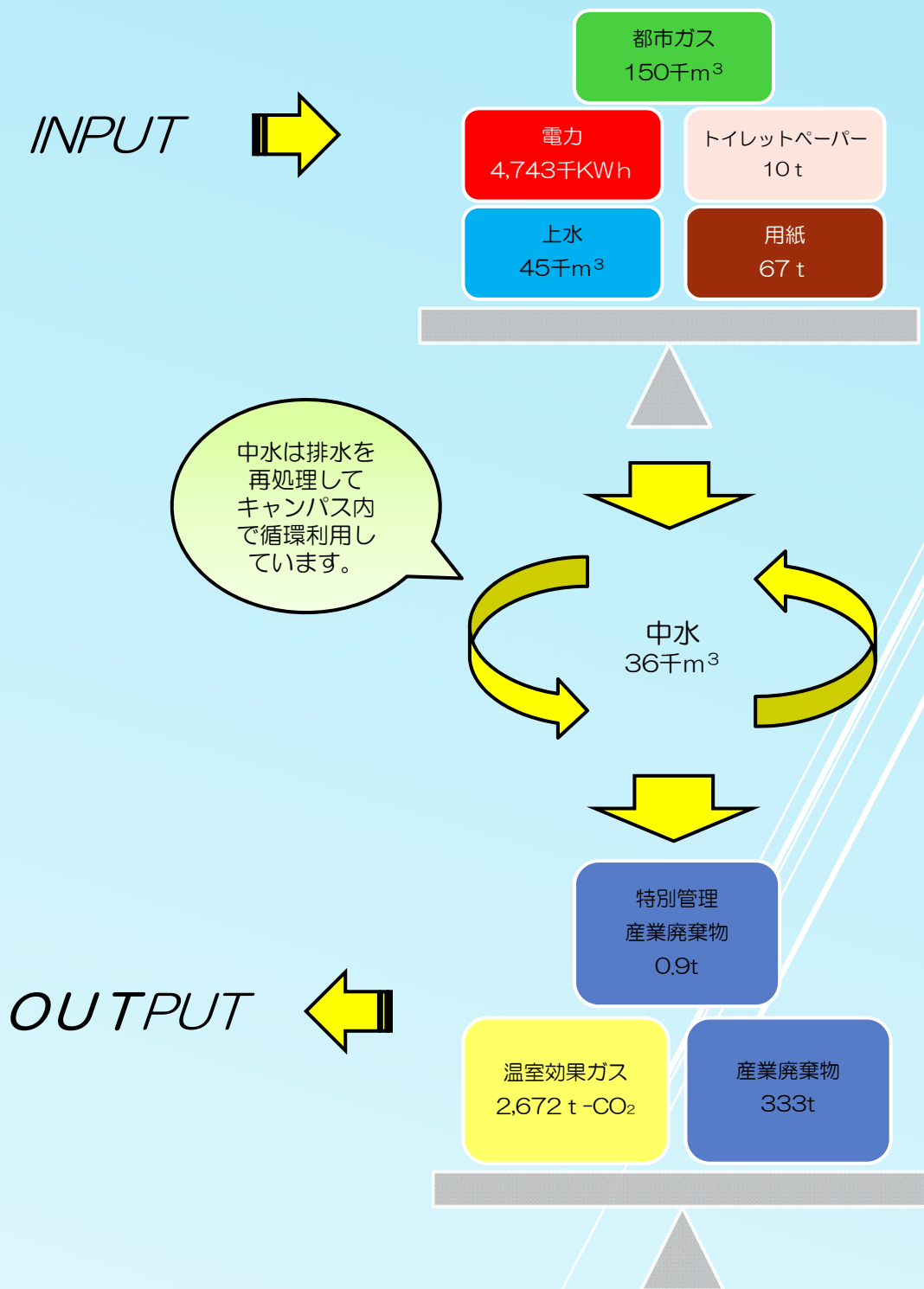
項 目	実 施 計 画
喫煙・分煙区域の指定	□分煙対策として、引き続き禁煙区域の明示と喫煙場所の整理を行い、受動喫煙の弊害を抑制する。
啓発活動	□喫煙者に対する健康意識の高揚や喫煙マナー向上に向けたPR活動を推進する。(2015年10月1日より全面禁煙実施予定)

■ 学内美化

項 目	実 施 計 画
雑草の刈り取りとゴミの一斉収集	□キャンパスクリーン週間を年間2回設け、教職員と学生による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。また、この週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。
花壇の整備	□計画的に整備する。
植栽の剪定	□期日を決め定期的に剪定や草刈の実施をする。

マテリアルバランス

マテリアルバランスとは、大学の活動に伴う環境負荷の全体像で、大学の活動のために投入する資源等をINPUT、大学の活動結果排出する環境負荷をOUTPUTとして表したもので、平成26年度の大阪教育大学柏原キャンパスのマテリアルバランスは下記の通りです。



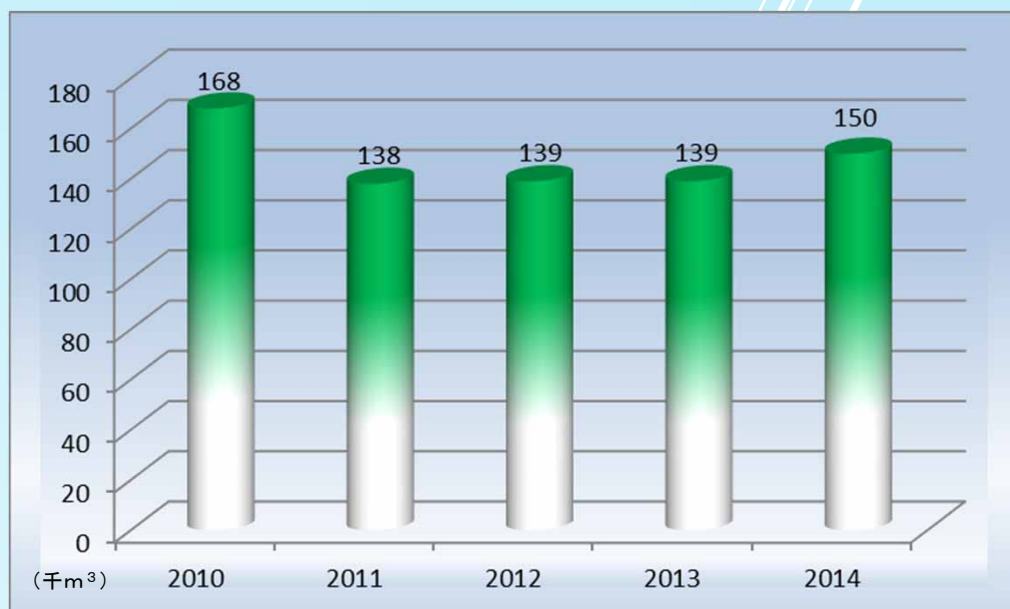
環境負荷データ

電力



●電力使用量削減のため全学的な省エネ活動を推進しています●
2014年度の電力使用量については、昨年に引き続き照明設備のLED照明等の高効率化の実施を行うと共に夏季及び冬季の省エネキャンペーン活動として、節電を実施したことにより、2013年度に比べ1.9%の電力使用量削減となりました。

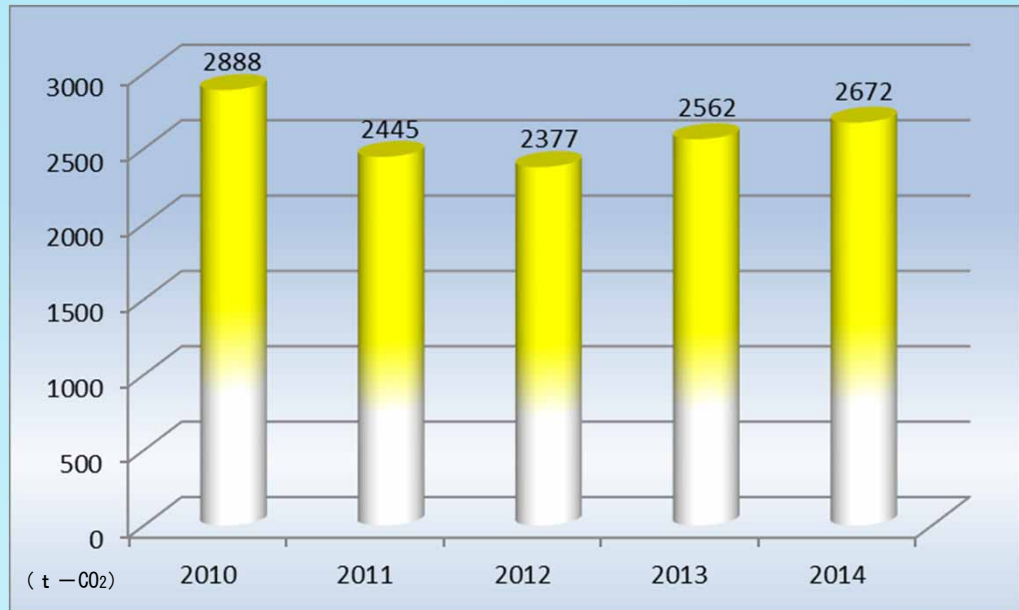
都市ガス



●ガス使用量削減についても全学的な省エネ活動を推進しています●
ガスヒートポンプ式空調機の整備として、空調設備の未整備箇所への整備を行いました。運用面では設定温度の抑制等を行いました。ガス空調機の増設整備により使用量の削減にはいたらず、2013年度に比べ1.9%の使用量増加となりました。

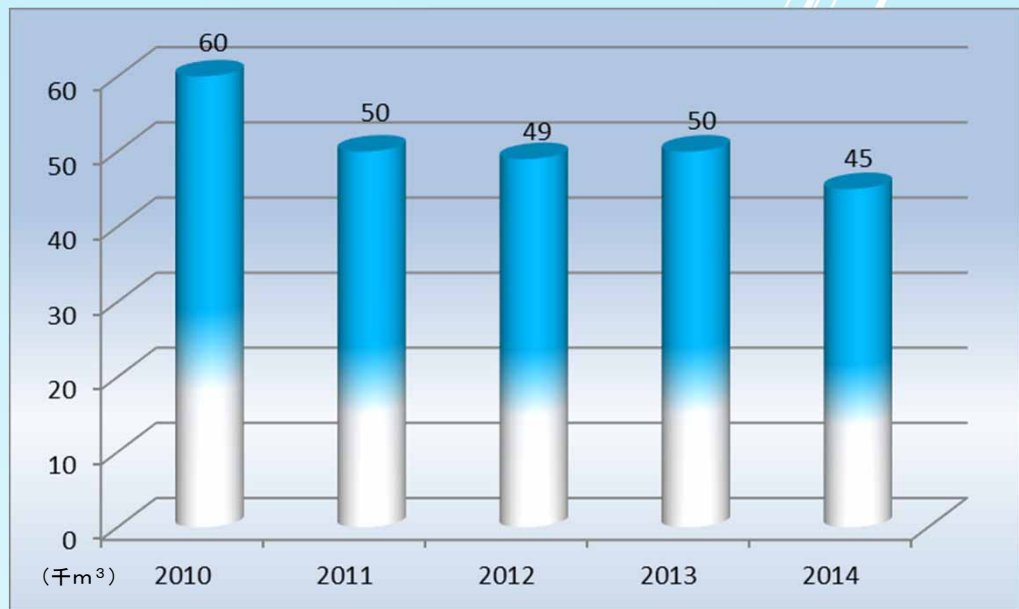
環境負荷データ

温室効果ガス



●温室効果ガス排出量削減に努めています●
2014年度の夏季及び冬季の省エネキャンペーン活動等の取組みにより電力エネルギーの消費が削減されましたが、電力の調達によりCO₂の排出係数が変動したため、とガス空調機の増設整備により2013年度と比べ4.3%の温室効果ガスの排出量が増加しました。

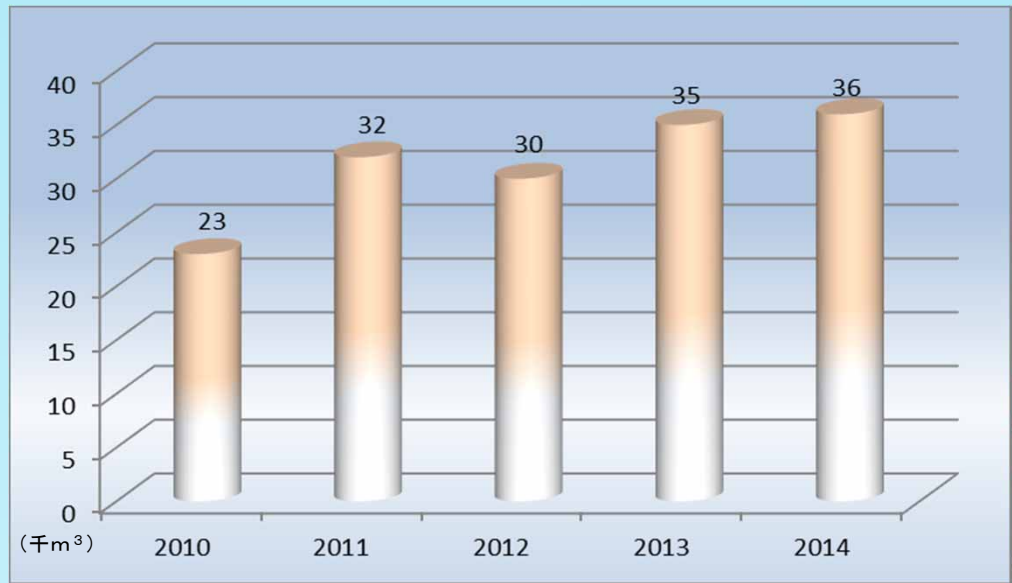
上水



●節水対策により水の使用量削減に努めています●
2014年度の上水使用量については、自動水洗及びトイレの擬音装置の導入並びに夏季冬季の省エネキャンペーン活動における節水の効果により2013年度に比べ10%の削減となりました。

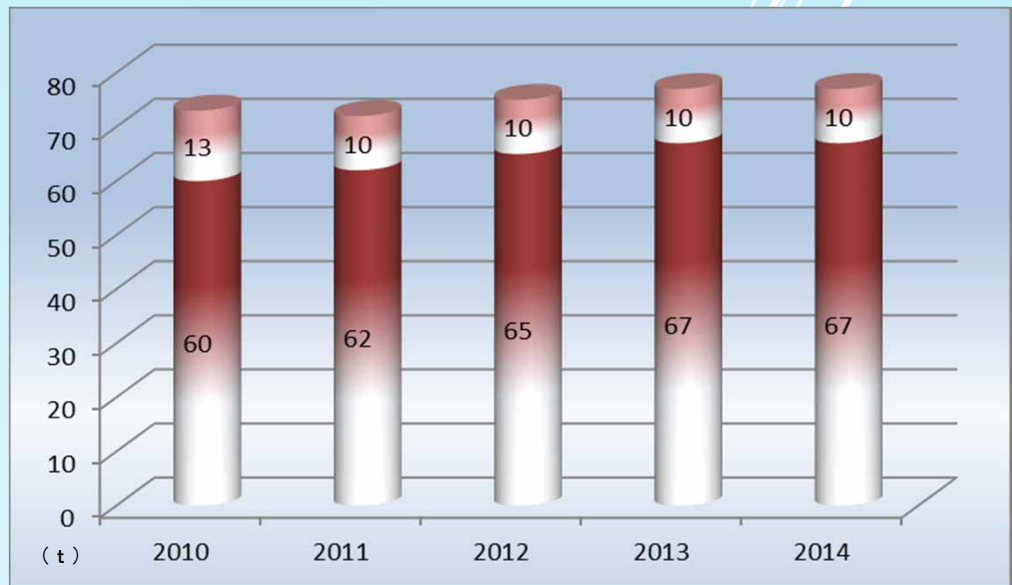
環境負荷データ

中水



●中水は排水を再生処理してキャンパス内で再循環利用しています●
 生活系で使用した排水は生活排水処理施設で処理を行い、中水として柏原キャンパス内のトイレの洗浄水や樹木などの散水として循環利用を図っています。また余剰の処理水は環境汚染のない基準以下に処理され、河川に放流を行っています。2012年度に排水処理施設の改修（膜分離活性汚泥方式の採用）を行い自然に優しい排水処理を行っています。

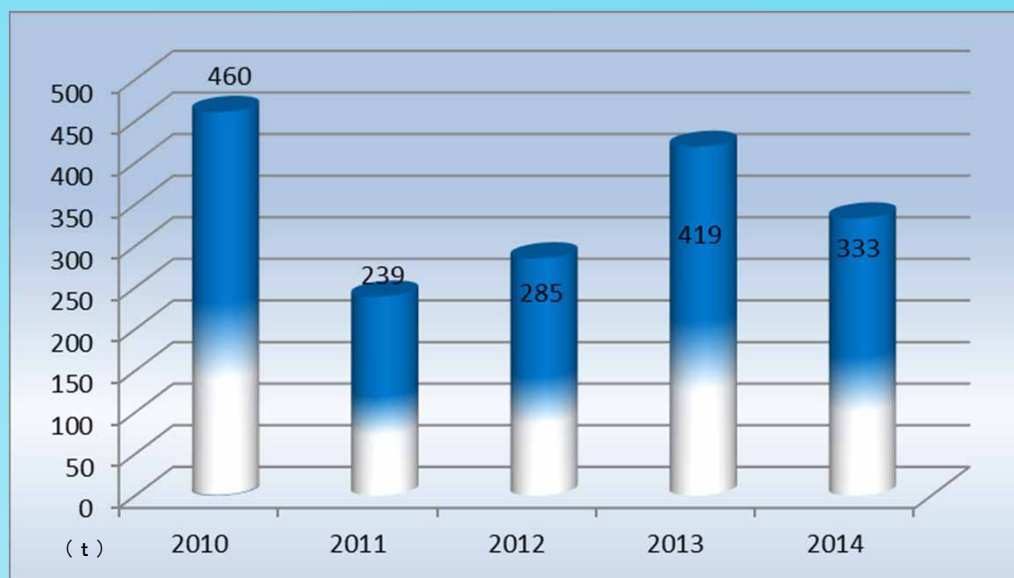
■ トイレtpaper
 ■ コピー用紙



●コピー用紙及びトイレtpaperの節減に努めています●
 コピー用紙・トイレtpaperについては、2013年度と同程度の使用量でした。大阪教育大学学内グループウェアにより通知文書の電子化や学内会議の配布文書の電子化を行いペーパーレス化を図っています。また、縮小印刷など紙使用削減に努めています。

環境負荷データ

産業廃棄物 特別管理産業廃棄物



●産業廃棄物の削減に努め適切な処理を行っています●

産業廃棄物については老朽した備品が多く搬出されたため、2013年度に比べて86m³削減しました、特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物は「廃棄物処理法」に基づき適正な処理を行っています。

※産業廃棄物は主に金属くず、木くず、廃プラスチック等を破碎した体積です。

■廃棄物の分別徹底とリサイクル

1. 一般廃棄物の分別収集

要所に分別ゴミ収集ボックスを配備して、分別収集を徹底し、委託清掃業者による毎日の清掃時に委託清掃業者が取りまとめて集積場に廃棄しています。

2. 特別管理産業廃棄物

特別管理産業廃棄物に該当する廃油、廃酸、廃アルカリ等については、随時産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託しています。

また、ポリ塩化ビフェニル廃棄物（PCB廃棄物）は、PCB保管庫に種類毎に保管しており、環境省「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画」に基づき委託処理する予定です。

3. 産業廃棄物

酸・アルカリ等の実験廃液やそれによる汚泥、廃油、また、廃プラスチック・金属類等の産業廃棄物は鍵付きの厳重管理格納庫を設置し、集積状況を見て随時、産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託しています。

4. その他のゴミの収集

冊子や紙類等は全構成員に回収日と収集場所を周知徹底し、リサイクル業者に回収処理を委託しています。粗大ゴミは鍵付き格納庫にコーナーを設け、リサイクル可能な物と不可能な物に分別し、学内再利用する物は学内ネットで広報し、必要者の再利用に供しています。

また、不可能な物については産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託しています。

環境マネジメント活動の推進

環境保全活動の状況

キャンパスクリーンの様子

○キャンパスクリーンデー

柏原キャンパスでは、10月29日（水）に秋季一斉クリーンデーと称して、学生ならびに教職員が参加して清掃活動を実施しました。これは、学生・教職員が共に作る『快適なキャンパス環境』を維持するため、緑化・美化活動の一環として、毎年夏季と秋季に実施されているものです。今回は、10月27日（月）から10月31日（金）をキャンパスクリーン週間とし、特に10月29日（水）をクリーンデーとして、大学全体で清掃活動に励みました。参加者は紅く色づいた落ち葉に秋の風情を感じながら、草刈りや落ち葉掃きに精を出していました。多くの参加者の協力を得て、キャンパスは再び美しく生まれ変わりました。



○「ドングリありがとう」

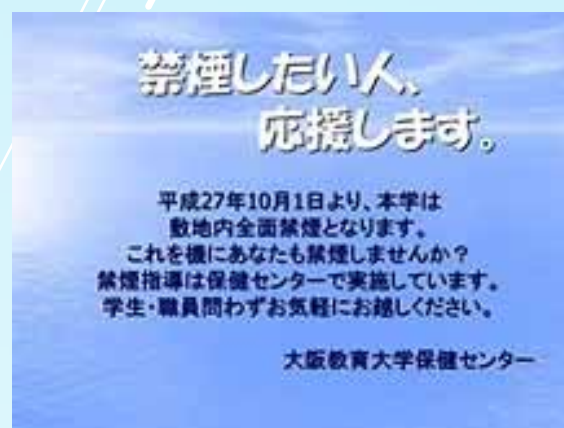
11月11日、年長児が柏原キャンパスに遠足に出かけました。学長室を訪問し、グラウンド周辺から集められたマテバシイ・クヌギなどドングリをいただきました。大きな箱に2箱もあったため、後日幼稚園に送っていただきました。ドングリが届くと、「わあ、いっぱい」と歓声をあげ、大喜びで箱の中のたくさんのドングリの感触を楽しみました。ドングリの大きさや形のの違いに関心をもつ子どももいました。早速ドングリやさんを始めたり、ドングリのケーキづくりを楽しみ、幼稚園の展示会では保護者にも見てもらい、大満足な様子でした。



○大阪教育大学キャンパス全面禁煙化について

大阪教育大学では、教職員・学生等の健康増進と快適な学校環境の形成の促進を図るため、全てのキャンパスにおいて、平成27年10月1日から敷地内禁煙を実施することになりました。

なお、学内外関係者に喫煙者がいることにも考慮しまして、現在屋外に設置しています喫煙所は、毎年半数を削減し、平成27年10月1日に喫煙所を全て撤去する計画です。



環境マネジメント活動の推進

環境保全活動の状況

NPO法人・電力会社との連携による緑化整備

(柏原キャンパスの山林活性化を目的として関係機関と連携し山林整備を行う)

期待される成果

蔓切りや伐採されることで蔓蔭に覆われていた樹木に光が当たり下草など繁殖が盛んになり、山土の流失が抑えられる、下草により保水性が改善されるなど山の活性化が行われる。



①によるシニア自然大学校による活動整備状況



②関西電力による仮設モノレール



仮設モノレールの見学会に参加する教員

事業内容

柏原キャンパスの給水高架タンク設置場所森林周辺で、関西電力(株)の高圧幹線用鉄塔建替協力要請に応え、学生の安全確保が計れることがわかり、地域貢献の一環として資材搬入用仮設モノレール設しました。完了後は既存管理道と連携する道として、実のなる樹木を補植した上で管理道路として整備しました。

また、シニア自然大学校調査研究部森林文化科の研究フィールドを柏原キャンパスの森林に設け、下草刈りを行うなどし新たに萌芽する植物を調査を行いました。下草刈りを行う事で明るい樹林整備を行うことができました。

これらの整備により柏原キャンパスの給水高架タンク設置場所への管理道路と既存里道と仮設モノレールの跡地を管理路として一体的に整備することができ、森林を活用しやすく成りました。

環境マネジメント活動の推進

環境保全活動の状況

みんなで花と緑に溢れたキャンパスにしようという整備計画

○エスカレータ横の法面での取組

この法面はほとんどが小さな石で構成されており、草しか育たない所でしたが、「花咲く法面に」と黄色や白色の水仙や芝桜で少しずつ花を増やし整備してまいりました。今年の芝桜は昨年度に比べると随分大きく育ち花を付け、春のキャンパスを彩豊かに演出してくれました。



スイセンの植栽



紫陽花の植栽



芝桜の植栽



植栽直後



植栽から1年後



環境マネジメント活動の推進

省エネルギー活動

○平成27年度夏季省エネについて

概要

原子力発電の依存度が高い関西電力管内では、近年火力発電の増強が見込めるものの、原子力発電ゼロの不安定な状況が続いています。この夏においても電力需要がひっ迫する可能性があることから、本学では夏季省エネ計画を策定し、附属学校園を含めた取組みとして、夏季の節電目標を掲げて節電・省エネ活動を実施する予定としています。

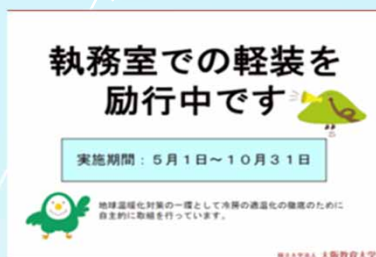
- ・ 節電目標 平成22年度夏季の最大電力より**13%**の節電及び電力需要平準化
- ・ 期 間 平成27年7月1日（火）から平成27年9月30日（火）

具体的な節電・省エネ実施項目について

- ・ 省エネパトロールの実施
- ・ クールビズの励行
(平成27年5月1日から平成27年10月31日の期間実施)
- ・ 未使用部屋の消灯（講義室とも）
- ・ 未使用部屋の空調機運転停止（講義室とも）
- ・ 室温管理の徹底（冷房**29℃**）
- ・ 昼休み等休憩時間の消灯
- ・ 自然光の活用（日中は窓側消灯）
- ・ 冷房期間中、ドア・窓の開け放し防止
- ・ ブラインドの有効活用
- ・ 空調機フィルターの定期清掃
- ・ 外気冷房（夏季の早朝、夜間および中間期）※網戸の活用
- ・ PC等省電力設定
- ・ 不要な周辺機器をパソコンから取り外す
- ・ PC等の長時間（約1時間30分以上）使用しない場合OFF
- ・ 冷蔵庫の庫内温度設定を「弱」モードにする
- ・ テレビ等のリモコン電源ではなく、本体の電源を切る
- ・ 日中で明るい場所は照明を消す
- ・ 長時間使用しない機器はコンセントからプラグを抜く
- ・ 長時間（2時間以上）使用しない電気ポットはプラグを抜く
- ・ 節水に努める



省エネ推進会議の様子



クールビズポスター

環境マネジメント活動の推進 エネルギー削減の取り組み状況 「省エネルギーおよび環境負荷軽減」

○共通講義棟A棟ピロティ改修

共通講義棟A棟廊下部分はアトリウム空間として屋外に開放された構造となっており、直接外気に面しているため、夏期においては外気の流入等により講義室の冷房効率の悪さが問題となっていました。このたび、1階東側ピロティ部分等開放されている部分にサッシの設置を行いました。これにより外気の流入を防ぐことが出来る様になり、また、中間期はサッシを開放することで、外気の取り入れが可能であり、年間通じて効率改善を図ることができます。



○教養学科棟・教員養成課程棟講義室サッシ改修

教養学科棟・教員養成課程棟講義室に二重サッシの取り付けを行いました。このことにより窓からの熱エネルギーの出入りが少なくなり空調効率改善が図れます。



教養学科棟講義室改修後



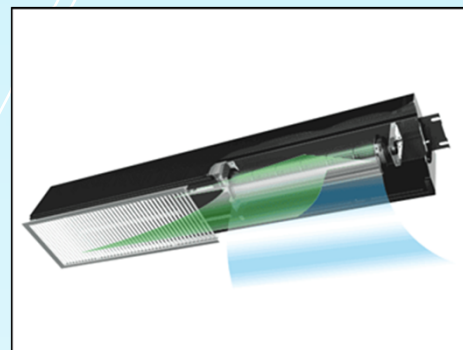
教員養成課程棟講義室改修後

○柏原キャンパス共通講義棟(A棟)講義室エアースイングファン設置

共通講義棟(A棟)215教室・216教室は階段教室のため、空調使用時に空調された空気が部屋の前後で温度差が生じたり、空調された空気が天井部分に停留するなどの原因で空調の効きが悪い意見がありました。これを改善するためにエアースイングファンの設置を行い、天井部分に停留した空気を攪拌し温度ムラを無くすことで空調効率の改善を行いました。これにより年間の消費電力と消費ガス量の削減並びに温室効果ガス削減が可能となります。



設置状況 (A215)

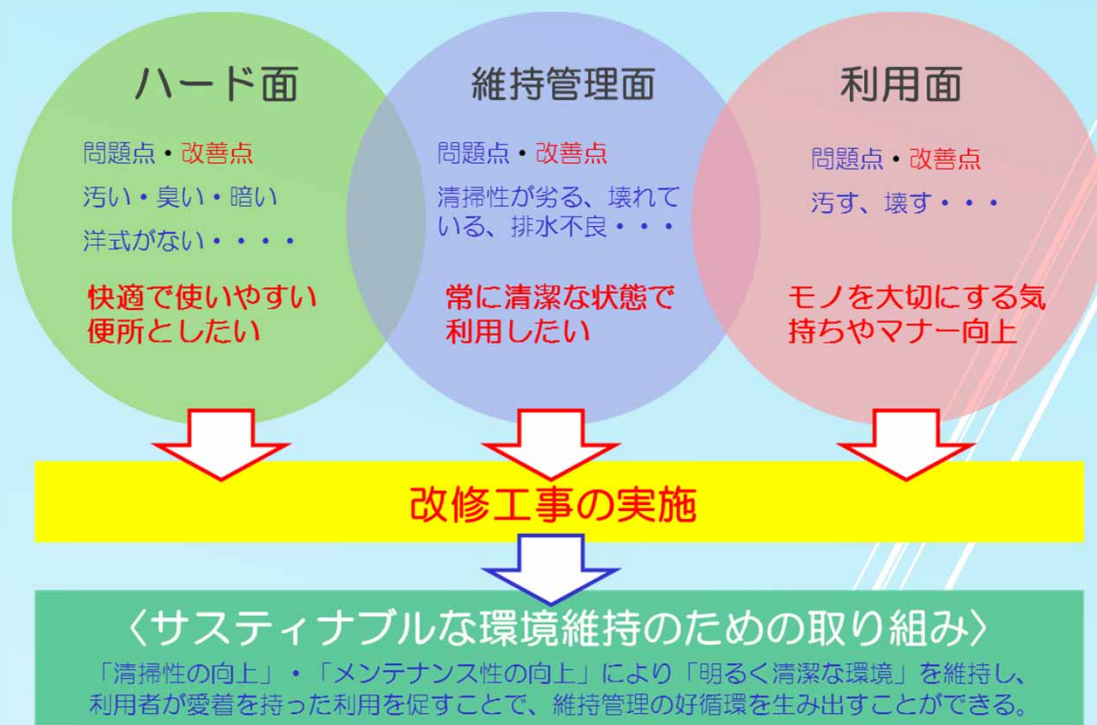


エアースイングファン

環境マネジメント活動の推進 エネルギー削減の取り組み状況 「省エネルギーおよび環境負荷軽減」

○大阪教育大学(柏原)便所改修工事

- ・ 柏原キャンパスは開学より約20年が経過し、施設設備の経年劣化が目立ち始めています。毎日利用する便所は老朽化や生活スタイルの変化に伴い、早急な改善が求められています。このことから利用者のニーズにあわせた快適で満足感の得られる改修を予定しています。
- ・ 工事期間：平成27年5月頃から平成27年9月末まで
- ・ 改修対象：教養学科棟B3棟及び教員養成課程棟C1棟
- ・ 改修内容：ゆとり有るトイレブースと式便器を主にした人に優しいトイレに改修する。
 - ・ 省エネ対応としてセンサー化及びLED照明並びに洗浄弁等のセンサー式を採用
 - ・ 老朽化した改修としてはトイレブース、防犯設備、給水、管、排水管、衛生設備、換気設備等



環境マネジメント活動の推進 安全安心への取り組み

○キャンパス内への不審者侵入を想定した防犯訓練を実施

より良い防犯体制の確立を目的に、柏原キャンパス内への不審者の侵入を想定した防犯訓練が、柏原警察署の協力のもと、11月13日（木）に事務局棟3階で実施されました。

同警察署生活安全課の警察官を不審者に見立て、教務課窓口で不審者がナイフをもって暴れたところを事務局職員が『さすまた』で取り押さえ、警察に引き渡すまでを実演しました。非常通報から現場にいる学生や職員の避難誘導、犯人の引き渡しまでの一連の流れを、各業務の職員が緊密に連携を取り、冷静かつ安全な対応に努めました。

訓練終了後は、同警察署から犯人を押さえる際の留意事項についての実技指導を受け、講評として「早めの110番通報を心がけ、『さすまた』の使用法や保管場所を関係者全員が認識するよう指導してください」と求められました。

本学では今後も、防犯への意識を高め、学校安全を推進する取り組みを強化していきます。



「さすまた」を使っての不審者捕獲実演



柏原警察署の警察官による実技指導

○柏原キャンパスの学生寄宿舍・留学成宿舍で防災訓練を実施

大規模地震を想定した防災訓練を、11月19日（水）に柏原キャンパスの学生宿舍と留学生宿舍で合同実施しました。

授業が少なく入居者が多くいる水曜日の午後に、震度6強の地震が起こり、間もなく各宿舍の補食室から火災が発生したという想定です。入居する学生122人のほか、学生サービス課、学術連携課、学生支援実施委員会、国際センター、障がい学生修学支援ルーム等の教職員17人が参加しました。参加者は、初期消火やけが人の搬送、通報、避難を分担して行い、続いて代表者による普通救命、避難ばしご、水消火器訓練を行いました。

指導にあたった学校危機メンタルサポートセンターの豊沢純子准教授ら関係教員から、「平素からの防災意識」や「周囲の人との交流は様々な災害に対する備えになる」などの講話があり、参加した学生からは「非常時に何をすればよいか分かった」等の感想が聞かれました。

学生宿舍と留学生宿舍は隣接しており、本学では今後も可能な限り合同で訓練を重ねていく計画です。



留学生宿舍から避難はしごで外へ出る訓練 23



水消火器で訓練する学生

環境マネジメント活動の推進 安全安心への取り組み

○平成27年消防記念日表彰を受賞

平成27年消防記念日表彰式典が、3月1日（日）に柏原羽曳野藤井寺消防組合消防本部で開催され、本学が優良防火対象物として表彰されました。大規模な消防計画の策定や、防災訓練および普通救命講習の実施などの実績が評価されたものです。

同表彰は、昭和23年の自治体消防発足以降、消防への関心と火災予防の意識高揚を図るため、3月7日を消防記念日と定めたことから、毎年早春に開催されています。

受賞にあたって栗林澄夫学長は「火災予防に対する組織的・継続的な取り組みが評価され、大変嬉しく思います。今後もよりいっそう消防への意識を高めていきます」と語りました。



○大規模地震を想定した防災訓練を柏原キャンパスで実施

大規模地震を想定した防災訓練を10月29日（水）に柏原キャンパスで実施しました。生駒断層帯における震度6の地震発生を想定し、共通講義棟、附属図書館、事務局棟内にいる教職員ならびに学生約900人が参加しました。

職員で構成する自衛消防隊は、被害情報の収集と対策本部への報告、初期消火や負傷者救護の実施、避難者の誘導などの任務にあたりました。

柏原羽曳野藤井寺消防組合消防署の消防司令は「綿密な計画にもとづいて実施されていました。放送設備の不備や避難誘導の仕方など、対策が必要な点も見られましたが、それらの改善を積み重ねていくことが重要です。今後もよりよい防災に努めてください」と訓練を総評しました。

本学では、今後も参加対象を拡げて訓練を重ねていく計画です。



初期消火の実施



災害対策本部へ各現場対応班からの被災状況報告



負傷者の救護



避難者の誘導

環境マネジメント活動の推進

安全安心への取り組み

○各附属学校屋内運動場等非構造物の耐震改修工事

- 天王寺附属中高、平野附属小中高及び池田附属小中高及び特別支援学校の屋内運動場は体育館の非構造物における耐震改修工事を予定しています。主な内容としてはアリーナの照明設備の改修(落下防止)と武道場等の既設天井の撤去並びに照明設備の改修(落下防止)を予定しています。
- なお、照明設備については、設置後経年劣化や球切れ等のため、早急な改修が望まれていたこともあり、落下防止に併せてLED照明器具への更新を行う予定としています。これにより、地震時の安全の確保と共に消費電力の削減、温室効果ガスの削減が期待できることとなります。

○文部科学省からの通達（写）



採内拡大



第1章 屋内運動場等における天井等落下防止対策の考え方

- 致命的な事故が起こりやすい屋内運動場等の天井等は緊急性をもって優先的に対策を実施。
- 構造体の耐震化が図られている施設であっても天井等の落下防止対策が必要。

第2章 天井等総点検用マニュアル

☆対策工事の要否を迅速かつ効率的に判断するため、**詳細な実地診断等を行わずとも対策の検討に着手できるフローチャート**を提示

第1節 天井の耐震点検と対策の実施

○天井の耐震点検から対策の実施までの手順を5つのステップに分けて解説。

(天井の耐震性に関する基本項目)

- ・壁際のクリアランス（隙間）の有無
- ・天井の耐震措置に関する特記事項の有無
- ・斜め部材の有無
- ・屋根形状と天井形状の比較による吊り長さの違い

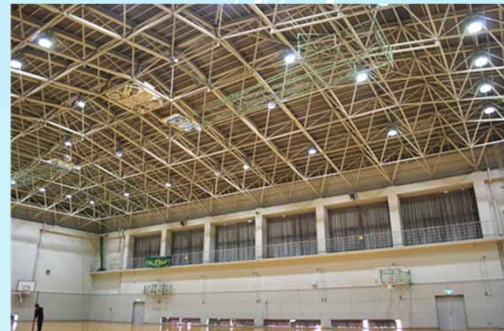
→ 外観からの目視等により大半が点検可能

○①天井撤去、②補強による耐震化、③撤去及び再設置、④落下防止ネット等の設置という手法を示しつつ、確実な安全確保方策として「**天井撤去を中心とした対策の検討**」を要請。

○改修工事の実施例（柏原キャンパス）



アリーナ（改修前）



アリーナ（改修後）



武道場（改修前）



武道場（改修後）

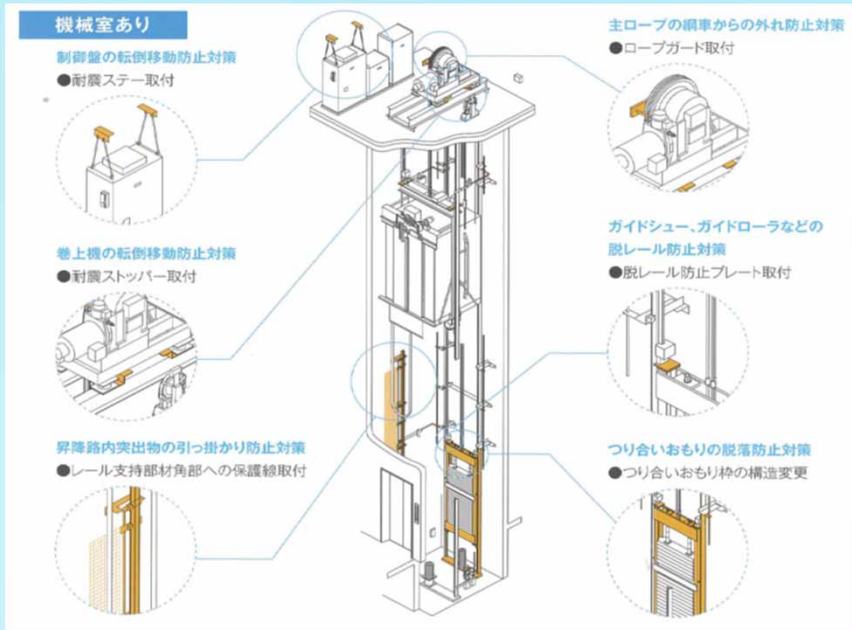
環境マネジメント活動の推進

安全安心への取組み

○附属図書館昇降機設備改修

附属図書館の昇降機設備の安全対策として改修工事を実施いたしました。附属図書館の昇降機設備は平成3年に設置し約23年が経過し取り替え部品の供給停止や安瀬機能が不足していました。このため、駆動装置等の更新を行いました。また、最新型の電動機及び制御盤の採用似合わせて、かご内照明についてもLED型に改修を行い、耐震等への安全安心にプラスし省エネ化を図ることが出来ました。また未整備の昇降機設備についても順次改修を行う事としています。

昇降機設備の主な改修内容（フジテック(株)の資料より引用）



巻き上げ機



制御盤



かご内照明
(LED化)

○柏原キャンパス屋外照明改修

柏原キャンパス屋外照明設備として、学生・教職員等の意見を踏まえ、夜間の安全安心な歩行路の確保として、旭ヶ丘会館付近及びエスカレーター付近にLED照明器具を用いた屋外照明設備の工事を行いました。採用したLED照明器具は水銀灯照明器具に比べて年間の消費電力削減と温室効果ガス排出削減が可能となります。



旭ヶ丘会館付近



エスカレーター横階段付近

環境マネジメント活動の推進

地域社会への取り組み

○「国際交流週間」を柏原キャンパスで開催

大阪教育大学の留学生と日本人学生、教職員、地域住民の方との交流を図り、異文化・国際理解に寄与することを目的として、国際センターと大阪教育大学生生活協同組合との共催による「国際交流週間」を、6月1日（月）から5日（金）までの期間に実施しました。

6月1日（月）、2日（火）、4日（木）5日（金）には、第2食堂のバイキングメニューとして、留学生の出身地の料理をアレンジして販売しました。留学生はメニューやレシピ提案を行い、マカロニ&チーズ（アメリカ）、お茶卵（台湾）、パプリカーシュ・クルンプリ（ハンガリー）、チャー・クニャイ・サッチ・モワン（カンボジア）が日替わりで提供されました。レシピ提案を行った留学生たちは口々に「おいしい」「国の味と同じ」と笑顔を見せていました。

6月3日（水）には、サンクンガーデンを会場に、留学生によるパフォーマンスと留学生出身地メニューのテント販売を行いました。

テントでは、トムカーガイ（タイ）、ルンダン（インドネシア）、ラミントン（オーストラリア）が販売されました。またテント販売の横では、中国とベトナムからの留学生が母国の伝統衣装を着て司会を務め、ハンガリーからの留学生がハンガリーの踊り（キティ&ジョルト）を、チーム絆（カンボジア、スリランカ、ミャンマー、ブラジル、インドネシア、タイ、ハンガリーの7か国の留学生によるチーム）が各国の音楽にあわせて踊る、『多国籍踊り』をそれぞれ披露しました。会場にはたくさんの方が集い、時折クイズを交えながらのにぎやかな司会や鮮やかな民族衣装を着てのパフォーマンスに盛大な拍手が起こりました。

イベントの準備段階から会場運営、広報物作成など、生協学生委員会が精力的に活動し、留学生と力をあわせてイベントを盛り上げました。

本学は、今後とも本学留学生と日本人学生、地域住民らとの交流を図り、国際理解を深める機会を設けていきたいと考えます。



テント販売の様子



パフォーマンスを披露した留学生たち

○「小松山合戦まつり」の奉納イベントで琉球鼓舞を披露

大坂の陣400年事業の一環として、小松山合戦まつり（近鉄河内国分駅からスタートする古戦場巡りハイキング及び柏原市立玉手山公園で開催の奉納イベント）が5月3日（日）に行われました。

奉納イベントでは、野外劇場にて近隣の大学・高校・市民団体が踊りや漫才を披露し、本学からは「いちゃりばちょー・エイサー隊」が15分に渡って琉球鼓舞を披露しました。その独特なリズムに魅了され、演舞が進むにつれて徐々に空席が埋まり、最終的には約140人が観覧し、大いにイベントを盛り上げました。

当日は、朝から曇り模様でしたが、無事に奉納イベントは終了し、観覧した市民の方々も満足した表情を浮かべていました。



オープニングセレモニー



いちゃりばちょー・エイサー隊の演舞

環境マネジメント活動の推進 地域社会への取り組み

○「第6回柏原市民総合フェスティバル」を開催

第6回柏原市民総合フェスティバルが、11月8日（土）に柏原市役所前大和川河川敷公園等で開催され、本学学生らがブース出展およびステージパフォーマンスで参加しました。

例年は別日程で行われていた、かしわら花火と各種イベントが同日開催となったため、各種イベントの開催時間が変更されたほか、肌寒い天候となりましたが、多くの来場者で賑わいました。

河川敷公園特設ブースには、例年人気のモダン科学館と似顔絵コーナーを出展しました。モダン科学館は理科教育講座の学生が中心となって、広く一般に向けて科学への興味を促す活動を展開しており、ブースでは工作キットを使って物理の法則を説明しました。子供たちはスタッフの説明に聞き入り、時に笑顔を見せる等、和やかな雰囲気の中で運営していました。似顔絵コーナーでは、閉店間際まで絶え間なく来場者が訪れ、スタッフが休む間を惜しんで描き続けていました。

さらに河川敷公園ステージでは、平成26年度学生チャレンジプロジェクト採択企画「とどけよう!! みんなのこえ!! ～東日本震災復興コンサート～」による心のこもった吹奏楽演奏、フォーク集団ペンペン草による楽しいトークや軽快な演奏が披露され、イベントを盛り上げました。



フォーク集団ペンペン草の演奏



似顔絵コーナー

○「2015年柏原シティキャンパスマラソン」を開催

2015柏原シティキャンパスマラソン（柏原市、柏原市教育委員会、大阪教育大学共催）が、3月8日（日）、本学柏原キャンパスで開催されました。

前日まで降っていた雨も止み、風も無く、少し肌寒いぐらいでしたが、ランナーにとって素晴らしいコンディションとなりました。

開会式での中野隆司柏原市長、古和悟学長補佐の挨拶の後、入念な準備体操に続き、2km親子ジョギング、3km、5km、10kmと順次スタートしました。およそ1,000人のランナーたちが、標高差最大100mのコースを駆け抜けていきました。

当日は応援ゲストにお笑いコンビ『女と男』、ゲストランナーにお笑い芸人の『がんばれゆうすけ』氏を迎え、さらに本学公式キャラクターの『やまお』と『たまごどり』、柏原市のキャラクター『かしびょん』も応援に駆けつけ、たくさんのお子様たちに囲まれていました。

昨年に引き続き、10kmコースをトップでゴールしたがんばれゆうすけ氏は、「沿道の声援のおかげでがんばれました」と話していましたが、ゴール直後に沿道に走り出て最後までランナーを応援するなど、驚異的な体力を見せてくれました。また、10kmコースの参加者は「去年は途中でバテたので、今回は抑えて行こうと思ったが、アップダウンの激しいコースで、途中でバテてしまった。来年は目標タイムを切りたい」と感想を述べました。

閉会式では恒例の大阪マラソンの抽選会が行われ、10km完走者から男女各1人が選ばれました。



開会式で挨拶する古和学長補佐



2km親子ジョギングの
スタート直後
28



コース最後の坂を駆け上がる
ランナー達

環境マネジメント活動の推進

学内での取り組み

○フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律

フロンガスは高い地球温暖化効果を有することから、地球温暖化防止のための法律として、フロン類の改修や破壊を対象としていた「フロン回収・破壊法」を平成25年6月に改正し、新たな内容を加えた「フロン排出抑制」として、平成27年4月1日から施行されることになりました。本学にも多くの対象機器があり、この法令に基づき点検管理しています。

地球温暖化とオゾン層破壊の原因となる
フロン類(CFC、HCFC、HFC)の排出抑制のため、
業務用のエアコン・冷凍冷蔵機器の管理者(所有者など)には
機器及びフロン類の適切な管理が義務づけられます



機器の設置に関する義務

確認!

■機器の適切な場所への設置

機器の損傷等を防止するため、適切な場所への設置、設置する環境の維持・保全
※振動源を周囲に設置しない、
点検・修理のために必要な作業空間を確保する、機器周辺の清掃を行う



機器の使用に関する義務

点検!

■機器の点検の実施

全ての機器について簡易点検を実施。さらに一定規模以上の機器については、
専門的な定期点検を実施
※義務の履行のため、所有・管理する機器のリスト化と点検体制・スケジュール等を
検討ください。

修理!

■漏えい防止措置/未修理の機器への冷媒充填*の禁止

フロン類の漏えいが見つかった際、修理を実施
修理しないでフロン類を充填することは原則禁止
*フロン類を充填する場合、都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者へ
委託する義務があります。

記録!

■点検等の履歴の保存

機器の点検・整備の履歴について機器毎に記録簿に記録、廃棄までの記録簿の保存

算定!
報告!

■フロン類算定漏えい量の算定・報告

第一種フロン類充填回収業者から充填・回収証明書の交付を受け漏えい量を算定
一定量以上漏えいした場合の毎年度の国への報告
※報告された漏えい量は会社名とともに公表されます。
※義務の履行のため、充填量・回収量の集計体制・スケジュール等を検討ください。



機器の廃棄等に関する義務

回収!

■機器廃棄時などのフロン類回収*の徹底

不要となったフロン類の回収依頼、「回収依頼書」又は「委託確認書」の交付、
フロン類の回収・再生・破壊に必要な費用の負担
*フロン類の回収は、都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者へ
委託する義務があります。

※1

機器の点検の実施について

フロン排出抑制法に基づく機器の点検は、以下の2つの方法があります。

- 全ての業務用のエアコン・冷凍冷蔵機器を対象とした簡易点検
(製品外観の目視確認など)
- 一定規模以上の業務用のエアコン・冷凍冷蔵機器を対象とした定期点検
(専門家による点検)

なお、法に基づく定期点検の対象及び点検頻度は下記の通りです。

機器の圧縮機に用いられる電動機の定格出力	定期点検の頻度
7.5kW以上の冷凍冷蔵機器	1年に1回以上
50kW以上のエアコン	1年に1回以上
7.5kW以上50kW未満のエアコン	3年に1回以上

定期点検対象機器の確認は、冷凍空調機器の室外機などの銘板に記載された、「圧縮機の定格出力」
や「電動機出力・圧縮機」、「呼称出力」などで確認できます。不明な場合は、カタログを確認するか
メーカーに問い合わせして下さい。

フロン排出抑制法の義務に違反した者に対しては、
以下のような罰則があります。

- フロン類をみだりに放出した場合…………… 1年以下の懲役又は50万円以下の罰金
- 機器の使用・廃棄等に関する義務について、… 50万円以下の罰金
都道府県知事の命令に違反した場合
- 算定漏えい量の未報告・虚偽報告の場合… 10万円以下の過料

環境マネジメント活動の推進

学内での取り組み

○大阪教育大生協の環境保護に関わる取り組み 「リサイクルのとりのくみ」

生協では、食堂で販売するテイクアウト弁当の容器としてリサイクル可能な「リ・リパック」を使用しています。生協学生委員会が、新入生歓迎企画の中で新入生の約半数に、生協の容器はリサイクルできることや容器フィルムのはがし方などを説明しました。また、学生委員会では毎週1回、容器の回収に学内をまわっています。2014年度の容器回収率は、学生委員会のこうしたとりのくみもあり、年間平均で前年から15.4ポイントアップの38.0%でした。



リ・リパック容器

新入生歓迎企画での説明の様子



回収ボックス及びリサイクル取組ポスター

環境マネジメント活動の推進

学内での取り組み

○大阪教育大生協の省エネルギーに関わる取り組み

生協では、前年と同様、夏と冬の2回、大学をあげての省エネキャンペーンに生協としても積極的に協力してまいりました。大学のチェックリストをもとに独自のチェックリストを作成し、空調の温度管理、照明の一部消灯、エアコンフィルター等の清掃、事務機器の主電源OFF、自動販売機昼間照明消灯やピークカットなどにとりくみました。

生協施設内での使用電力量は、前年夏期は改装のため休業していたこともあり、夏期11.7%、冬期0.8%、年間2.8%の増加となりました。しかし、基準となる平成22年度との比較では、夏期9.7%、冬期12.5%の削減をすることができました。

生協(厨房機器、厨房ファン、書籍購買空調、自販機)の使用電力量							
	使用量(KWH)	金額	対前年削減量	対前年削減率	22年比削減量	22年比削減率	
25年夏省エネ期間	112,924	2,025,857	▲ 5,661	5.0%	▲ 27,376	24.2%	
25年冬省エネ期間	118,585	1,977,998	9,125	-8.3%	▲ 14,830	5.8%	
25年度年間	469,389	8,420,833	▲ 7,240	1.5%	-	-	
26年夏省エネ期間	127,867	2,545,839	14,943	-11.7%	▲ 12,433	9.7%	
26年冬省エネ期間	110,688	2,203,824	940	-0.8%	▲ 13,890	12.5%	
26年度年間	483,035	9,617,280	13,647	-2.8%	-	-	
購買機器25年年間	74,677	1,339,705	▲ 10,950	14.7%	-	-	
購買機器26年年間	73,337	1,460,140	▲ 1,340	1.8%	-	-	

平成26年度省エネ・節電の実施状況

大阪教育大学・26年度夏季省エネキャンペーン

生協の省エネキャンペーン

<2014年7月～9月実施中!>

【主な節電実施項目】

- TERRA・第2食堂・カフェ・レストランFORET
ホール照明の開店前消灯および閉店後即時消灯、昼間時窓際消灯
- 自動販売機の照明の終日消灯
- 空調(冷房)の設定温度管理
- 空調(冷房)の営業終了時停止
- 空調・冷蔵ショーケースのフィルター定期清掃
- 出入口の開放厳禁(混雑時以外)
- 事務機器電源OFFの徹底

全学をあげての省エネ推進のため、生協も様々な節電に取り組んでいます。組合員の皆さんも、**食堂やショップアイリスのドアを開けたら閉める等、ご協力をお願いいたします。**

UNIV CO-OP 大阪教育大学生活協同組合

組合員への協力よびかけポスター



缶ペットボトル自販機のほとんどに、夏期の電力ピークの時間帯にコンプレッサーを一定時間停止する「ピークカット」機能を設定しています。

柏原キャンパスマップ配置図



1
共通講義棟 H2 RC3F
7,078㎡
講義室、視聴覚教室、情報処理実習室、LL教室などがあります。



2
教養学科棟 H3 RC4F
12,894㎡
講義室、実習室、研究室などがあり、教養学科の講義、研究が行われています。



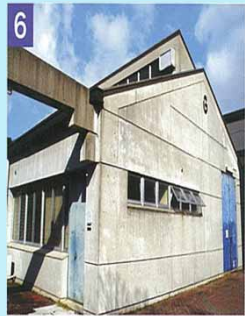
3
教員養成課程棟 H3 RC4F
19,010㎡
講義室、実習室、研究室などがあり、教員養成課程の講義、研究が行われています。入試課はC1棟1階にあります。



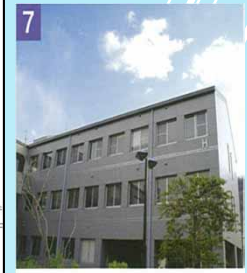
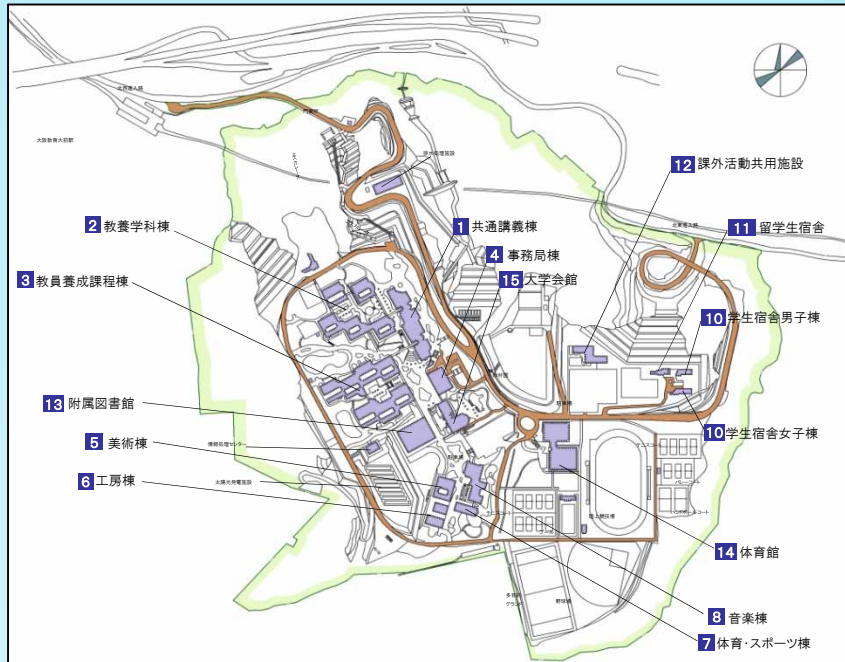
4
事務局棟 H6 RC4F
4,369㎡
学務部のほか、管理部、学術部などがあります。



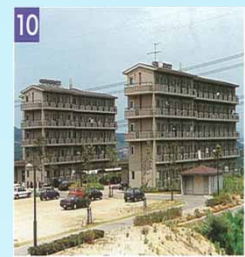
5
美術棟 H3 RC3F
2,659㎡
絵画室、デザイン室、書道室、講義室、研究室などがあります。



6
工房棟 H3 RC1F 797㎡
彫刻室、金工室、立体室、木工室、窯工室、研究室などがあります。



7
体育・スポーツ棟 H3 RC4F
1,745㎡
実験実習室、講義室、セミナー室、研究室などがあります。



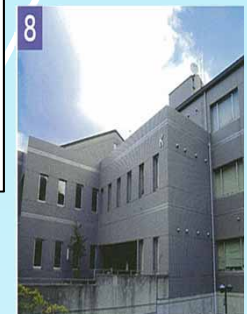
10
学生宿舎 H5 RCSF 2,560㎡
男子学生宿舎(収容定員60名)が1棟、女子学生宿舎(収容定員80名)が1棟あります。



11
留学生宿舎 H6 RC4F 1,004㎡
40室(収容定員男性18人、女性22人)あり、留学生に居住の場を提供しています。



12
課外活動共用施設 H6 RC2F
1,989㎡
体育系共用室、文化系共用室、合宿室などがあり、課外活動の拠点になっています。



8
音楽棟 H3 RC4F 4,084㎡
リハーサルホール、実習室、練習室、講義室、研究室などがあります。



13
附属図書館 H3 RC3-1F 7,224㎡



14
体育館 H4 RC1F 1,770㎡

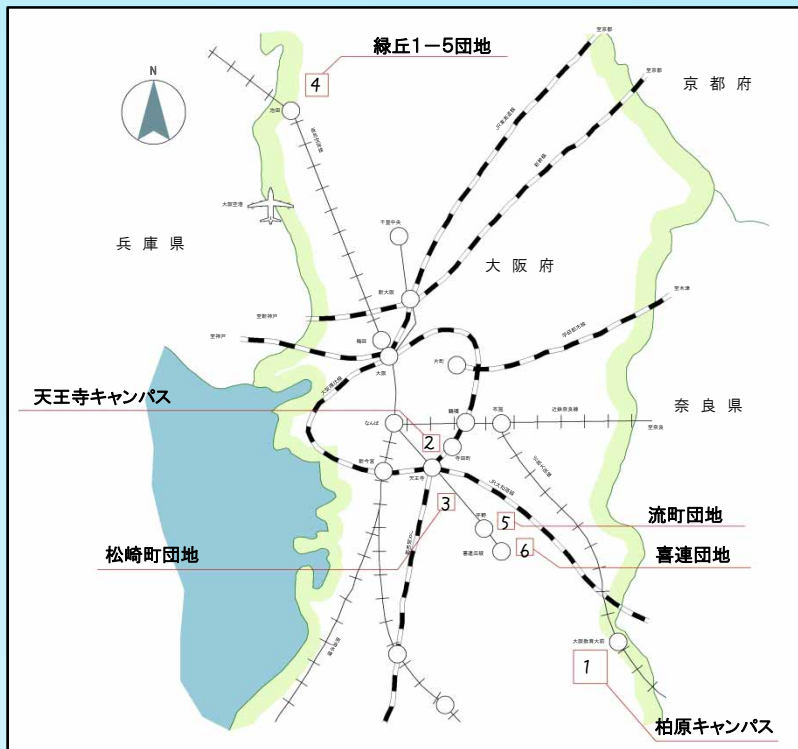


15
大学会館 H3 RC4F 3,677㎡

団地の所在地

柏原地区

- 1** 柏原キャンパス
大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1



キャンパスの特徴

天王寺地区

- 2** 天王寺キャンパス
大阪市天王寺区南河堀町4-88
附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎
大阪市天王寺区南河堀町4-88
- 3** 松崎町団地
附属天王寺小学校 大阪市阿倍野区松崎町1-2-45

池田地区

- 4** 緑丘1-5団地
附属池田小学校 池田市緑丘1-5-2
附属池田中学校 池田市緑丘1-5-1
附属高等学校池田校舎 池田市緑丘1-5-1
学校危機メンタルサポートセンター

平野地区

- 5** 流町団地
附属幼稚園 大阪市平野区流町2-1-79
附属平野小学校 大阪市平野区流町1-6-41
附属平野中学校 大阪市平野区流町2-1-24
附属高等学校平野校舎
大阪市平野区流町2-1-24
- 6** 喜連団地
附属特別支援学校 大阪市平野区喜連4-8-71

大阪教育大学には柏原キャンパスの他、11の附属学校園が設置されている。大阪市内の天王寺地区及び平野地区、大阪府北部の池田地区に分かれて置かれ、いずれも大学との連携のもと、教育研究・教育実践・教育実習の場として重要な役割を果たすとともに、それぞれ地区ごとに連絡進学をはじめさまざまな相互連携をとり、下記のような特徴を持っている。

○柏原キャンパス

平成元年より天王寺、平野、池田より統合移転し、大学の本部を置くキャンパスである。

○天王寺地区

教育学部（二部）、大学院（夜間）と附属天王寺小学校、附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎を有するキャンパスで「基礎・基本の確かな育成」「中高一貫教育の長い歴史」を目標にしている。

○池田地区

附属池田小学校、附属池田中学校・附属高等学校池田校舎を有するキャンパスで「生きる力の育成・国際教育の基盤作り」「国際教育・国際理解教育と異文化交流」を目標にしている。

○平野地区

附属幼稚園、附属平野小学校、附属平野中学校・附属高等学校平野校舎、附属特別支援学校を有するキャンパスで「相互連携した教育・研究」「5校園構想への取組みと異校種交流学習」を目標にしている。



編集後記

本環境報告書は大阪教育大学の安全安心キャンパスや省エネ活動への積極的な取り組み、環境配慮活動についてまとめたものです。さらなる本書の充実と本学の環境への取組についてご指導、ご支援をお願いいたします。

お問い合わせ先

国立大学法人 大阪教育大学

総務部施設課企画係

電話：072-978-3333

FAX：072-978-3345

mail：sisetuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

URL：http://osaka-kyoiku.ac.jp/